

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和5年4月26日（水）16:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから4月26日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿って説明いたします。

まず、2ページ目の4月28日の（4）ですけれども、第1142回審査会合。

前回説明したときから時間と議題が変わっています。午前・午後の終日の予定でしたが、午後だけということになりました。それに伴い議題が1つ減っていきまして、志賀2号機の敷地周辺の地質構造という議題が落ちています。

次が、5月9日の（6）ということで、国際アドバイザーと委員との意見交換会合。

これは国際のアドバイザー、海外の規制機関のトップなどを有識者委嘱しまして、年2回程度意見交換をしているというものでありますけれども、今回、会合自体は非公開部分も含めて丸一日ですが、最後の1時間部分、17時から18時の部分が公開のセッションということになっていきまして、議題は高経年化についてということで、物理的な劣化と非物理的な設計の古さという話、そういったことを意見交換します。

次が、3ページ目、3のその他の（2）国際原子力規制者会議（INRA）ですけれども、5月4日から5日にかけて委員長がトロントに出張します。

これは9か国の規制機関のトップが毎年2回集まって意見交換を行うという会議で、各国持ち回りで開催しているもので、今回はカナダが主催国ということになります。

資料は以上で、今後のこのブリーフィングは、次回はゴールデンウィーク明け、5月9日の火曜日ということになります。

次の委員長会見、委員会は5月10日水曜日ということになります。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問をお願いいたします。御質問のある方は手を挙げてください。

エンドウさん。

○記者 共同通信のエンドウです。

今の発表の件と別になりますけれども、本日、GX関連法案が衆院の経済産業委員会で賛成多数で可決されました。その中で、一部修正案として、原子力規制委員会による原発の設置の許可等に係る審査の効率化及び審査体制の充実を求めた発電用原子炉の安全確保のための規制の在り方を、政府が施行後5年以内に検討の対象とするということが盛り込まれたり、同様の内容の、審査の効率化に対する内容の附帯決議が可決されています。このことに関する受け止めをお願いいたします。

○黒川総務課長 審査効率化、我々は審査プロセスの改善と呼んでいますけれども、我々も我が事として取り組まなくてはいけないこととしてやっていることでありますし、法案の審議の過程でもいろいろ議論されたことでもありますので、改めて5年の時点できっちり見直すようにというような趣旨の改正だったのかなと思います。我々としても、まさに審査プロセスの改善、それを見直しながら、継続的に改善してやっていくということになるのかなと思います。

○記者 特に問題とかはないということですか。

○黒川総務課長 元々我々がやっていること、それをきっちり5年に1回見直すようにという趣旨であろうかと思っておりますので、まさに我々もそれをやるべきことだと考えています。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかに御質問はありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—